

製品名: IPMK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12705**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	IPMK
別名	IPMK; IMPK; Inositol polyphosphate multikinase; Inositol 1; 3,4,6-tetrakisphosphate 5-kinase
遺伝子 ID	253430.0
SwissProt ID	Q8NFU5
免疫原	抗血清はヒト IPMK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 311-360

背景

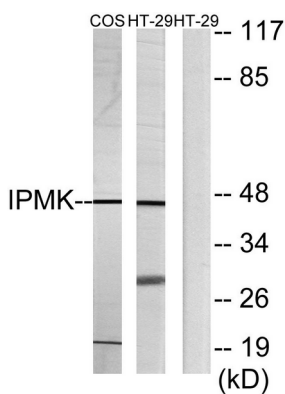
この遺伝子はイノシトールホスホキナーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、リン酸化イノシトール基質に対して 3-キナーゼ、5-キナーゼ、および 6-キナーゼ活性を有します。コードされているタンパク質は、イノシトール

ル 1,3,4,5,6-ペンタキスリン酸の生合成において重要な役割を果たし、5-キナーゼ活性を優先的に有します。この遺伝子は、核 mRNA の輸出に関与している可能性があります。この遺伝子の擬似遺伝子は、染色体 13 の長腕と染色体 19 の短腕に位置しています。[RefSeq 提供、2010 年 12 月]、触媒活性: $\text{ATP} + 1\text{D-ミオイノシトール } 1,4,5,6\text{-テトラキスリン酸} = \text{ADP} + 1\text{D-ミオイノシトール } 1,3,4,5,6\text{-ペンタキスリン酸}$ 。、触媒活性: $\text{ATP} + 1\text{D-ミオイノシトール } 1,4,5\text{-トリスリン酸} = \text{ADP} + 1\text{D-ミオイノシトール } 1,4,5,6\text{-テトラキスリン酸}$ 。、機能: 幅広い基質特異性を持つイノシトールリン酸キナーゼ。イノシトール-1,4,5-トリスリン酸 (Ins(1,4,5)P3) およびイノシトール 1,3,4,6-テトラキスリン酸 (Ins(1,3,4,6)P4) を好みます。類似性: イノシトールホスホキナーゼ (IPK) ファミリーに属します。組織特異性: 普遍的に存在し、骨格筋、肝臓、胎盤、肺、末梢血白血球、腎臓、脾臓、結腸で最も高く発現します。、

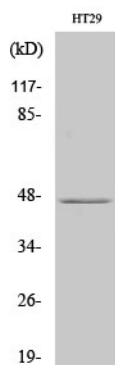
研究分野

イノシトールリン酸代謝;

画像データ



IPMK 抗体を用いた HT-29 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



IPMK ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタン ブロット分析。